

## 彙報第一

前会長 服部四郎

### 第12回国際言語学者会議（昭和52年夏，於 Wien）への本会代表の選挙

昭和51年度第2回委員会の決議にもとづき，上記選挙が次の日程で行なわれた。全評議員，委員，常任委員に対する昭和51年10月29日付書簡を以て会長より候補者の推薦（自薦，他薦）を依頼したところ，締切日の11月15日（月）までに5名の被推薦者があったので，11月20日（土）に郵送による全委員の無記名投票に付し（管理者：会長，北村），11月29日（月）投票締切，12月4日（土）開票（管理者：会長，大東，北村，江，佐藤，下宮，長谷川）の結果，

有権者総数 65，投票者数 51，無効票 3，有効投票者過半数 25

にて，最上位得票者の得票数が上記過半数に達しなかったので，同日，上位得票者 西田龍雄，服部四郎両氏の決選投票用紙を全委員および会長に送付（管理者：同上），12月13日（月）投票締切，12月18日（土）開票（管理者：会長，大東，江，佐藤，下宮，長谷川）の結果，

有権者総数 66，投票者数 55，無効票 2，白票 3

服部四郎 28 票，西田龍雄 22 票

にて，服部四郎が代表に決定した。

因みに，過去における同国際会議への本会代表は次の諸氏である。

第7回 1952年 (London)	亀井 孝 [当時 Cambridge 在住]
・ 8 ・ 1957 ・ (Oslo)	泉井久之助
・ 9 ・ 1962 ・ (米国 Cambridge)	小林 英夫
・ 10 ・ 1967 ・ (Bucarest)	泉井久之助
・ 11 ・ 1972 ・ (Bologna)	野上 素一

### 第2回会長・会計監査委員・委員の選挙

上記選挙が国内在住個人会員の互選により，次の日程を以て行なわれた。昭和

52年2月5日(土)投票用紙等発送(管理者:会長,大東,北村,江,佐藤,下宮,長谷川),2月19日(土)投票締切,2月26日(土)開票(管理者:会長,大東,北村,江,佐藤,下宮)。その結果は次の通り。

○投票者総数 249 有効投票者数 232

○会長の選挙 投票者数 231 有効投票者数 229

会長: 泉井久之助 97 (次点:柴田武 42 ; 次々点:西田龍雄 9)

○会計監査委員の選挙 投票者数 232

当選者: 大東百合子, 日下部文夫

○委員の選挙 投票者数 232

当選者:

- 1) 北海道(2名) 池上二良 井上史雄
- 2) 東北(3名) 加藤正信 佐藤喜代治 長谷川松治
- 3) 関東(35名) 石綿敏雄 井上和子(ICU) 梅田博之 大江孝男 大野晋 奥津敬一郎 風間喜代三 川本茂雄 北村甫 木村彰一 金田一春彦 国広哲弥 W.A.グロータース 江実 河野六郎 小林英夫(東京都) 佐藤則之 柴田武 下宮忠雄 鈴木孝夫 田中克彦 田村すゞ子 千野栄一 辻直四郎 徳永康元 中島文雄 野元菊雄 橋本萬太郎 長谷川欣佑 林大 原田信一 平山輝男 三根谷徹 三宅鴻 矢島文夫
- 4) 中部(8名) 岩井隆盛 小泉保 佐藤茂 新村猛 野村正良 日野資純 松本克己 吉町義雄
- 5) 近畿(16名) 池上禎造 岩倉具実 岸本通夫 北嶋静江 五島忠久 阪倉篤義 崎山理 塚本勲 寺村秀夫 徳川宗賢 西田龍雄 林栄一 蛭沼寿雄 堀井令以知 村山七郎 山口秀夫
- 6) 中国・四国(4名) 関本至 竹内和夫 藤原与一 吉川守
- 7) 九州・沖縄(3名) 上村幸雄 大江三郎 松田伊作

泉井久之助氏の会長当選に伴い、本会事務局が京都産業大学内に設けられることになった。ただし、本会の郵便振替の番号、大修館内事務所は元のまま(本誌裏表紙裏面参照)。

昭和52年度・53年度常任委員および編集委員長の選挙

上記の選挙は次の日程により行なわれた。昭和52年3月4日（金）投票用紙等発送（管理者：会長，大東，下宮），3月19日（土）投票締切，3月26日（土）開票（管理者：会長，大東，北村，江，佐藤，下宮）。その結果は次の通り。

○常任委員の選挙 有権者総数 66，投票者数 48

当選者：A 大地区（北海道，東北在住会員） 加藤正信  
 B 〃 （関東在住会員） 徳永康元，矢島文夫  
 C 〃 （中部，近畿在住会員） 堀井令以知

○編集委員長の選挙 有権者総数 66，投票者数 47

当選者： 西田龍雄

昭和48年度会計報告の訂正

昭和48年度の会計報告が事実と相違することが会長により確認されたことは既報（『言語研究』第69号，P.82）の通りであるが，会長が昭和52年1月28日付の柴田武氏（48年度・49年度の委員長）に対する公開の書簡で「48年度の真実の会計報告」を提出するよう同氏に要請したところ，同年2月21日付書簡を以て柴田武氏は昭和48年度の会計報告（『言語研究』第67号，P.93に公表）を下記のように訂正する旨，会長に回答した。

公表した金額		訂正すると回答した金額	
収入	前期繰越 $\Delta$ 175,907		$\Delta$ 233,008
支出	会費(現金) 437,047		
	〃 (振替) 744,340	会費及び雑誌売上金(振替)	1,094,470
	雑誌売上 135,131	(現金)	455,805
	上記3件合計 1,316,518	上記2件合計	1,550,275
	収入総額 1,340,902		1,517,558
	支出 雑 費 130,861		292,173
	支出総額 1,453,456		1,614,768
	差引(残高) $\Delta$ 112,554		$\Delta$ 97,210

ただし，昭和49年度会計報告の「前期繰越高」は既公表（『言語研究』第69号P.85）の如く， $\Delta$  112,554円+11,449円= $\Delta$ 101,105円であることが確認されて

いるにも拘らず、柴田武氏の「訂正繰越高」△ 97,210円はこれと合わない。既報（同誌P.82）の如く「収入が少なくとも350,130円だけ実際より少なく報告されていることが確認された」にも拘らず、今回の柴田氏の訂正は、収入を

$1,550,275 \text{ 円} - 1,316,518 \text{ 円} + (233,008 \text{ 円} - 175,907 \text{ 円}) = 290,858 \text{ 円}$   
だけ訂正しているに過ぎない。また、上記の柴田氏の「収入の前期繰越高」の訂正額が真実であるとするれば、昭和47年度の会計報告にも真実でない部分が含まれていることになる。

#### 『言語研究』バックナンバーの寄贈について

昭和50年度第6回常任委員会の決議（『言語研究』第70号，p. 107）にもとづき、昭和51年度に次の寄贈が行なわれた。

○国立国会図書館（収書部） 西新宿本会事務局ならびに大修館内本会事務所に  
在庫の無い下記の諸号を除き、各号1冊ずつ。（ただし、68号以下は2冊ずつ。）

1号，3号，7/8号，9号，12号，60号。

○本会事務局に保存の分（会長事務局が移転することに移管される）。上記各号  
を欠く上に、さらに下記の諸号を除く各号1冊ずつ。

4号，22/23号，31号。

従って、今後の本会事務局には次の各号が保存されていることとなる。

2号，5号，6号，10/11号，13～21号，24号～30号，32～59号，  
61号以下最新号まで。

○C I P Lの The Linguistic Bibliography に下記の諸号を1冊ずつ寄贈した。

13, 21, 33～59, 61～71

○そのほか、相手方の要請により下記のように寄贈した。

国立国語研究所 68, 69, 70

東京大学東洋文化研究所 61号以下。

Czechoslovak Academy of Sciences, Oriental Institute (交換) 64～70号。

Institut für Japanologie der Universität Wien (交換) 68～71号。

#### 『言語研究』バックナンバーの移送について

東京大学言語学研究室にあった多量のバックナンバーと、大修館内本会事務所  
保管の分とを併せて、その半数余をボール箱に密封、上記本会事務所に保管し、

半数足らずを西新宿事務局に移送して、頒売（および寄贈）に努めた（『言語研究』第70号，p.107参照）が，なお多量のもので残ったので，昭和52年4月1日より会長事務局が京都に移転するに伴い，4月8日徳永康元，矢島文夫，下宮忠雄の3常任委員と副会長（前会長）と立会いの上，次のように処置した。

まず，前会長の記帳した事務局在庫冊数と実物とを照合点検して，両者が合致することを確認した上，次の3グループに分け，それぞれボール箱に入れて密封し，そのうち（2）と（3）を大修館内事務所あて発送した。（1）京都事務局の分，（2）第74回大会のための分，（3）大修館内事務所に保管の分。このうち（1）は4月15日に矢島文夫氏，岩本忠氏が西新宿事務局より京都事務局へ発送した。これらはいずれも希望に応じて『言語研究』第70号，p.114および本号のp.115に示した価格で会員等にお頒ちする予定であるが，すでに次の諸号は全く品切れである。

1号～19/20号，22/23号～33号，35号，53号，56号，58号～60号。

◇寄 附 服部 四郎 500,000円（昭和52年3月18日）

◇寄贈図書リスト（昭和51年11月～52年3月）

川上 葵『日本語音声概説』	桜楓社（1977）
国立国会図書館『遂次刊行物目録，昭和49年版』	（1976，11）
京大人文学研究所『東洋学文献類目，1974年度』	（1976，9）

- 国語審議会『新漢字表試案』 (1977, 1)
- 国語学 107, 108. 国語学会 (1976, 12; 1977, 3)
- 計量国語学 79, 80. 計量国語学会 (1976, 12; 1977, 3)
- 民族学研究 Vol 41, No 3. 日本民族学会 (1976, 12)
- 日本民俗学 108. 日本民俗学会 (1976, 11)
- 宗教研究 Vol 50, Nos 3, 4. 日本宗教学会 (1976, 12; 1977, 4)
- 考古学雑誌 Vol 62, Nos 2, 3. 日本考古学会 (1976, 9; 12)
- 朝鮮学報 82. 朝鮮学会 (1977, 1)
- 東方学 53. 東方学会 (1977, 1)
- 日本学術会議月報 Vol 17, Nos 10; 11; 12; Vol 18, No 1.  
(1976, 10; 11; 12; 1977, 1)
- 昭和50年度国立国語研究所年報 27. (1976, 9)
- 東方学会会報 31. (1976, 12)
- 国立民族学博物館研究報告 Vol 1, No 3; 4 (1976, 9; 12)
- 国語学研究 15. 東北大学文学部 (1976, 12)
- 通信 28. アジア・アフリカ言語文化研究所 (1976, 11)
- 国語学 研究と資料 1. 早稲田大学文学部 (1976, 12)
- 電気通信大学 学報 Vol 27, No 1. (1976, 8)
- 人文論叢 1976, No 2. 東京工業大学 (1977, 2)
- カナノヒカリ 651, 652, 653, 654, 655.  
カナモジカイ (1976, 11; 12; 1977, 1; 2; 3)
- 放送文化 1976, 12; 1977, 1; 2; 3; 4. NHK
- Graphication 1976, 10; 11; 12; 1977, 1. 富士ゼロックス㈱
- Eldridge Mohammadou, ed.: L'Histoire des Peuls Férôbé du Diamaré,  
Maroua et Pétte アジア・アフリカ言語文化研究所 (1976)
- Shohei Wada: Iraqw Folktales in Tanzania " (1976)
- Akio Nakano: Dialogues in Moroccan Shilha " (1976)
- Acta Asiatica 31. 東方学会 (1977)
- Nebulae Vol 2. 大阪外大 Linguistic Circle (1976, 10)
- Bulletin of the School of Oriental and African Studies, Univ. of

- London, Vol 39, Part 3, 1976.
- Wissenschaftliche Zeitschrift der Univ. Rostok, Gesellschafts- und Sprachwissenschaftliche Reihe, XXIV 7 ; 9 ; 10, 1975.
- Russkij Jazyk v Shkole 5 ; 6, 1976 ; 1, 1977, Moskva.
- Russkaja Literatura 3 ; 4, 1976, Leningrad.
- Vestnik Leningradskogo Universiteta ; Istorija-Jazyk-Literatura, vyp. 3 ; 4, 1976.
- Movoznavstvo 5 ; 6, 1976 ; 1 ; 2, 1977, Kiiv.
- Ukraïns'ka Mova i Literatura v Shkoli 10 ; 11 ; 12, 1976 ; 1 ; 2, 1977, Kiiv.
- Slovo a Slovesnost 3 ; 4, 1976, Praha.
- Archív Orientální (Ar Or) 3 ; 4, 1976, Praha.
- Literature, Music, Fine Arts : German Studies, Section III, Vol 9, No 2, 1976, Tübingen.
- Commentationes Humanarum Litterarum 55, 1976, Helsinki.

昭和 51 年度会計報告

《収 入》		《支 出》	
前期からの繰越	△176,603 円	刊行経費 <sup>1)</sup>	1,249,390 円
会費収入 <sup>1)</sup>	4,472,594	送料 <sup>1)</sup>	224,086
雑誌等売上	662,411	大会関係費 <sup>1)</sup>	281,490
文部省補助金	380,000	通信費	69,120
受取利息	94,241	事務用品費	28,227
寄附金 <sup>2)</sup>	660,000	印刷費	19,741
計	6,092,643 円	交通費	5,440
		迎送費	9,950
		九学会連合会費	30,000
		C I P L 寄附金	60,760
		委員会費 <sup>1)</sup>	72,250
		常任委員会費	77,250
		編集費	63,782
		選挙等関係費 <sup>1)</sup>	748,166

注

1) 会費収入の納入手続による分類は次の通り。

現 金	559,100
郵便振替	3,602,485
銀行口座	311,009

なお、納入会費総額の4割近くが昭和50年度分およびそれ以前の年度

2) 寄附金の内訳は、

杉藤美代子氏	10,000
学習院大学	150,000
服部四郎	500,000

事務所賃借料	60,000
事務局事務員給料 <sup>*)</sup>	604,980
雑費	17,385
次期へ繰越	2,470,626
計	6,092,643 円

3) 刊行経費は『言語研究』70号、71号の分。

4) 送料は、下記のもの以外はほとんど個別郵送料。

70号国内一斉発送	73,406
71号 "	71,230
海外一斉発送	24,900
団体会員その他に名簿一斉発送	12,760
計	182,296

5) 大会関係費には次のものが含まれている。

第72回大会	通知印刷代	11,040
	・ 郵送料	42,350
	講師謝礼	20,000
第73回大会	通知印刷代	14,790
	・ 郵送料	44,200
	講師謝礼	20,000
	事務員2人派遣費	48,020
計		200,400

6) うち第1回委員会の昼食代61,000円は学習院大学よりの寄附金による。

7) その内訳は次の通り。

a) 会則修正賛否投票	14,100
b) 第12回国際言語学者会議への本会代表の選挙	17,050
c) 第2回会長・会計監査委員・委員の選挙	626,210



d) 昭和 52, 53 年度常任委員・編集委員長の選挙	12,940
e) 会長等選挙結果の会員への通知 印刷代, 発送手数料, 郵送料	77,866

上記のうち c) には次のものが含まれている。

『会員名簿 付会則等』印刷代	405,000
選挙通知の印刷および大型封筒	13,000
中, 小封筒印刷代, 投票用紙作製代	26,350
上記すべてのものの会員への郵送料	151,600
計	595,950

- 8) 事務局事務員の給料は 1 時間 500 円と交通費。恒常的事務のほか、従来の事務の混乱を整理するための臨時的事務、正確な会員原簿、会員住所氏名謄写カードの作成、多額の滞納会費の度々の納入催促、団体会員、海外会員の整理、『言語研究』バックナンバーの販売、発送、等極めて多量の事務があった。

◇寄贈図書リスト (追加)

Die Sprache, Zeitschrift für Sprachwissenschaft, 22, 1, 1976, Wien.

『言語研究』バックナンバー在庫案内

『言語研究』のバックナンバーのうち次の各号の在庫がありますので、ご希望の方には、下記の価格でお届けいたします。

34 号 — 36 号	各号	¥ 1,000
37 号 — 50 号	・	¥ 600
51 号 — 63 号	・	¥ 800
64 号 — 65 号	・	¥ 1,000
66 号 — 69 号	・	¥ 1,500

## 彙 報 第 二

会長 泉井久之助

新会長は本年（1977年）4月1日就任、ただちに京都産業大学当局の諒解を得て学会事務局をそこに開設、主務者として本会会員・上記大学助教授岩本 忠氏を依囑（後に常任委員会の議を経て〔一般〕委員会において正式に承認）、前会長の協力のもとに、主として上記主務者を介して事務局の移転と、これに伴う諸般の事務移動を完了して通常事務を開始、同時に前年度に確定の第74回大会の会場校、東京女子大学（原島 鮮学長、大会運営委員長・清水 護同大学教授）の好意を新たに仰いで交渉を重ね、かたわら大会の講演ならびに研究発表者の各位を依囑して応諾確認の上、なお近畿地区在住の常任委員堀井令以知氏の援助を得て諸般の事項を蒐集整理、その審議と決定のため、常任委員各位に参集の招請状を發し、本年度第1回常任委員会を5月7日、新事務局において次のごとくに開く。

## 昭和 52 年度第 1 回常任委員会

日 時：5月7日（土）午後2時～5時

場 所：京都産業大学内、本学会事務局

出席者：泉井久之助(会長)、加藤正信、下宮忠雄、徳永康元、矢島文夫、  
岸本通夫、堀井令以知、関本 至（地域順）

欠席者：原田信一（委任状あり）

- 議 事：1) 第74回大会の開催日を6月18・19日（土・日）と定め、そのプログラムを審議・決定して、案内状（下記参照）を作成。
- 2) 昭和51年度決算について、前会長送付の決算報告書を配布して検討・諒承。
- 3) 昭和52年度予算案を検討して作製（下記参照）。

- 4) 事務局職員について、委員会の承認を求めることになる。主務者岩本 忠氏およびその助手一名（但し主務者は本会会員として原則的に無給）
- 5) 本年度第1回委員会の議案を作成。
- 6) 第75回大会を京都外国語大学において開催し、その大会運営委員長に同大学教授・本会会員近松洋男氏を依頼することを決定。
- 7) 会費値上げ案につき協議。なお社会情勢をみて再審議に決定。

以上の審議結果の報告をうけ、併せてなお他の事項を議するため、本年度第1回（一般）委員会は、大会第1日の開会に先立ち、その午前10時30分より次のごとくに開催。

#### 第1回委員会

日 時：昭和52年6月18日 午前10時30分～午後1時

場 所：東京女子大学1号館3階会議室

出席者：泉井久之助（会長）、池上二郎、石綿敏雄、井上和子、井上史雄、加藤正信、岸本通夫、北嶋静江、国広哲弥、江 実、小林英夫、崎山 理、柴田 武、下宮忠雄、鈴木孝夫、関本 至、竹内和夫、田中克彦、塚本 勲、徳川宗賢、徳永康元、野元菊雄、橋本萬太郎、長谷川松治、原田信一、平山輝男、蛭沼寿雄、堀井令以知、松田伊作、村山七郎、矢島文夫、吉川 守、吉町義雄（以上33名）

オブザーバー：服部四郎（副会長）、大東百合子（会計監査委員）、岩本 忠（事務局主務者）

欠席者：（委任状提出）

池上禎造、岩井隆盛、上村幸雄、梅田博之、大江三郎、奥津敬一郎、風間喜代三、木村彰一、金田一春彦、河野六郎、阪倉篤義、佐藤喜代治、佐藤 茂、佐藤則之、寺村秀夫、野村正良、林 栄一、藤原与一、三根谷徹、（以上19名）

（委任状なし）

岩倉具実, 大江孝男, 大野 晋, 北村 甫, W. A. グロータース,  
 小泉 保, 五島忠久, 新村 猛, 田村すす子, 千野栄一, 中島文雄,  
 西田龍雄, 長谷川欣佑, 林 大, 日野資純, 松本克己, 三宅 鴻,  
 山口秀夫 (以上20名)

報告および議事:

- 1) 第1回常任委員会の議事についての報告。
- 2) 昭和51年度決算報告案が承認された。
- 3) 昭和52年度予算案が一部追加をもって承認された。(下記119ページ参照)
- 4) 第75回大会は, 京都外国語大学(森田嘉一学長)において, 10月15日・16日の両日に開催を決定。大会運営委員長に近松洋男氏を委嘱した。同大会の研究発表の公募は8月15日に締切る。
- 5) 同大会で会員の懇親会を行なうことについて協議し, 承認された。
- 6) 事務局職員として岩本 忠(主務者), 岡本則子(助手)の両氏を委嘱することが承認された。
- 7) 編集委員として江 実, 蛭沼寿雄, 徳川宗賢の三氏が編集委員長より指名された旨, 報告があった。
- 8) 選挙管理委員会の選挙を行ない, その当選者: 堀井令以知, 徳川宗賢, 岩本 忠, 崎山 理, 阪倉篤義, 杉藤美代子, 長田夏樹, 蛭沼寿雄
- 9) 文部省科学研究費補助金配分にかかる審査委員候補者の選挙を行ない, その  
 当 選 者: 柴田 武, 北村 甫  
 次 点 者: 井上和子, 日下部文夫, 徳永康元
- 10) 語学文学研究連絡委員選挙の結果, 当選者 徳永康元氏の辞退により, 次点者 江 実氏に決定。
- 11) 東洋学研究連絡委員選挙結果,  
 当 選 者: 河野六郎
- 12) 九学会連合当番学会としての本会の活動について柴田 武委員

(九学会連合理事) から次のように報告があった:

《昭和52年度は言語学会が当番学会となり、言語学会の会長が自動的に九学会連合会長に就任することになった。会長は、5月29日成城大学における第31回九学会連合大会に出席して理事会の審議に加わり、大会閉会の辞において言語学会よりの挨拶を述べた。

九学会連合は奄美調査に関して科学研究費を再び得ることになり、一昨年に引き続き調査が行なわれる。外間守善氏を調査委員長として調査本部が法政大学沖縄文化研究所に設けられ、本部員には、柴田武氏のほかに中本正智・内間直仁・加治工真市の諸氏が加わり、柴田武・外間守善・日下部文夫・中本正智・加治工真市・松本泰文・江本幹栄・上村幸雄・内間直仁・真田信治の諸氏が主として調査を担当する》。

昭和52年度日本言語学会予算(委員会修正済)

収入の部		支出の部	
前期繰越	2,470,626	刊行費	1,800,000
会費収入	2,182,800	編集費	80,000
(国内個人)	1,932,900	発送費	300,000
(団体・書店・海外)	249,900	大会関係費	400,000
雑誌売上金	50,000	委員会費	100,000
文部省補助金	380,000	常任委員会費	350,000
預金利息	5,000	九学会連合会費	30,000
		C I P L負担金	62,000
		選挙関係費	90,000
		事務費	100,000
		事務費	250,000
		(事務用品費)	170,000
		(印刷費)	30,000
		(交通費)	50,000
		事務所賃借料	60,000

		事務局職員謝金	650,000
		予 備 費	700,000
		雑 費	116,426
計	5,088,426	計	5,088,426

上記委員会終了後、雨天、両日にわたって次記のごとく大会開催。

### 第74回大会

期 日：昭和52年6月18日（土）・19日（日）

会 場：東京女子大学（電話：03-395-1211）

第1日（6月18日）（午後1時30分～4時）

開 会 の 辞

講 演：清水 護（大会運営委員長・東京女子大学教授）「シェイクスピアの用語と聖書の訳語」

会長就任講演：泉井久之助（会長）「双数について」\*

第2日（6月19日）

研 究 発 表：（午前10時～11時30分）

- 1) 「原始印欧語における文結辞の機能について」 千種 真一
- 2) 「トルコ借用語よりみたハンガリー語の長母音」 池田 哲郎
- 3) 「朝鮮の訓について——『千字文』を中心にしつつ——」

藤本 幸夫

定例会員総会：（午後1時～1時30分）

研 究 発 表：（午後1時30分～2時30分）

- 4) 「シュメール語における Votive について」 吉川 守

\* 会規第12条2項への註記による義務としての会長就任講演の同年度における『言語研究』誌上での公刊は、会長の多忙と、同誌本号（第72号）の会員諸氏よりの寄稿輻湊とのために、本号では中止された。しかし会長講演は長篇のため、次号に要約または結論の趣旨のみを載せ、あるいは全体の趣旨の展開を別の機会に俟つに至ることと考えられる。

5) 「アイスランド語研究の歩み ——Noreen を中心として——」

森田 貞雄

特 別 講 演：（午後2時30分～3時30分）

Roy Andrew MILLER (Professor, University of Washington,  
Seattle, U. S. A.)

「日本における言語学の将来の課題についての私見」（用語：日本語）

(Some Tasks Ahead for Linguistics in Japan)

閉 会 の 辞：

新 入 会 者

（1977年4月1日——10月31日）：59名。

退 会 者

（1977年4月1日——10月31日）：4名。

◇ 本誌は文部省昭和52年度科学研究費補助金の交付を得て刊行されたものである。